

# 東京湾海況情報 24-9

## 東京湾水質調査結果（平成24年12月）

（平成24年12月14日発行）

千葉県水産総合研究センター  
 東京湾漁業研究所  
 〒 293-0042 富津市小久保3091  
 TEL 0439-65-3071  
 E-mail futtsu-gk@mz.pref.chiba.lg.jp  
 千葉県農林水産技術会議

資料 水質調査 12/5：内湾(わかふさ)、内房海域(ふさみ丸)  
 関東・東海海況速報(12/5)、東京湾口海況図(12/5)  
 モニタリングポスト(12/5：国土交通省関東地方整備局、海上保安庁)  
 東京都環境局(12/5)

### 【 水温・塩分の状況 】

内湾の表層水温(図1)は先月下旬以降冬型の強まりによって低下し、ほぼ13℃～15℃台まで下がっています。塩分はほぼ31～32PSU台で、依然平年よりやや高めになっています。

一方、内房海域の表層水温は15～19℃台前半、塩分は33PSU台後半～34PSU台前半で、金谷から南の千葉県側では水温18℃以上、塩分34PSU台以上の水塊がみられています。また、縦断面の水温・塩分の鉛直分布(図3)をみても、水温18℃以上の水塊が勝山沖の表層から底層付近までみられています。

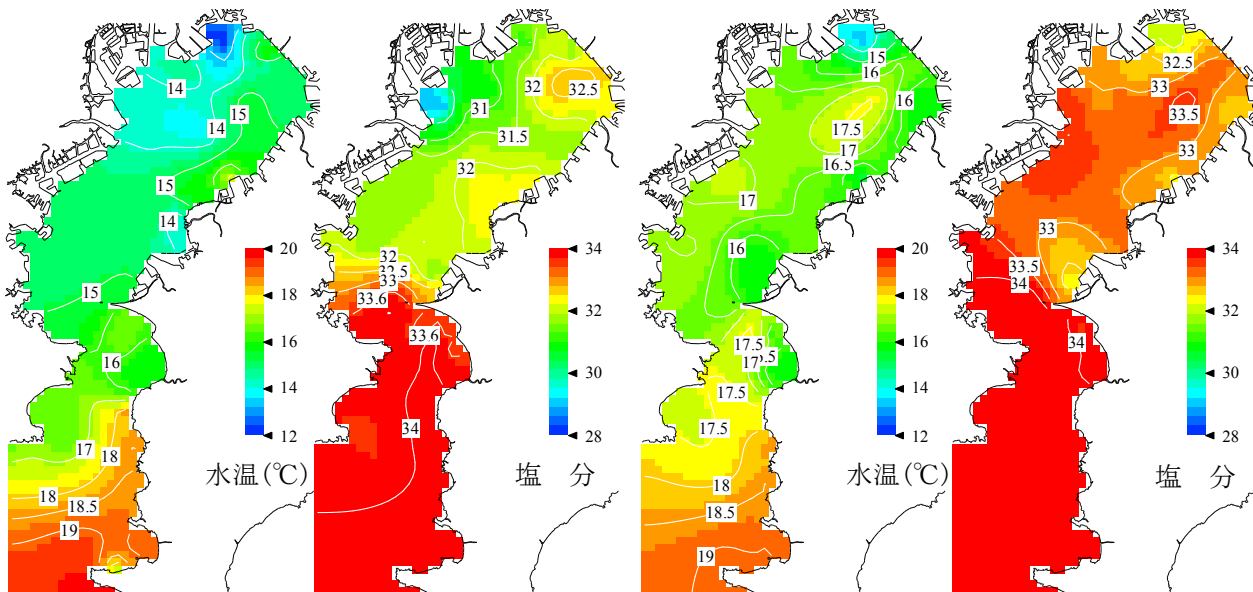


図1 水温・塩分分布（表層）

図2 水温・塩分分布（底層）

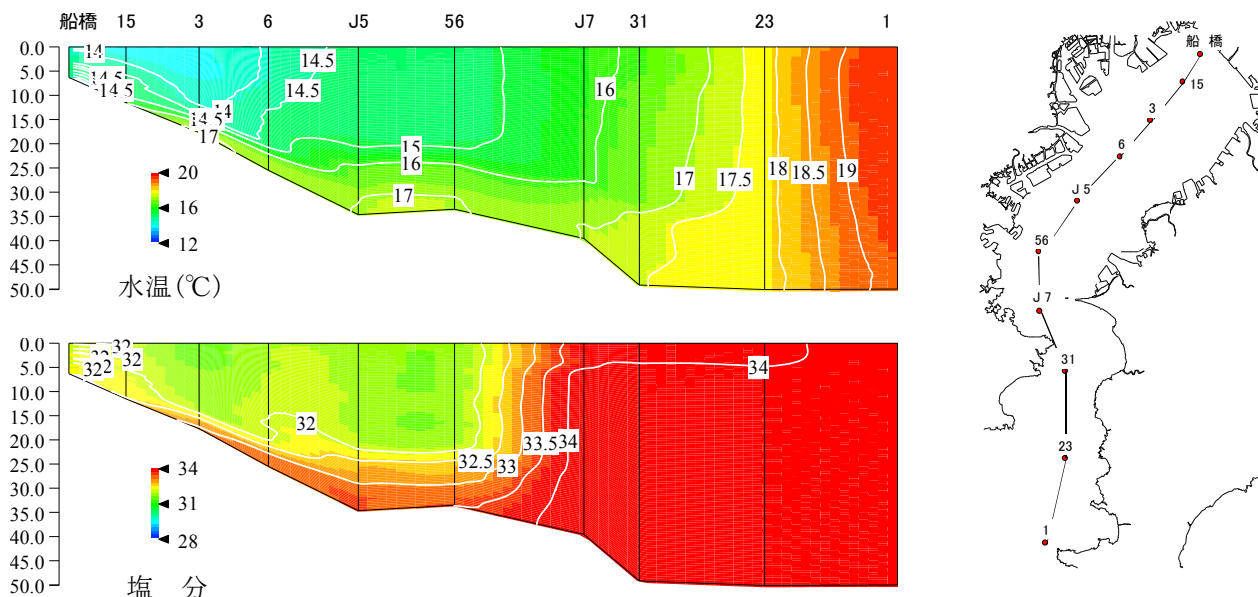


図3 縦断面の水温・塩分の鉛直分布(上：内湾、下：内房海域、右：調査ライン)

## 【 赤潮の状況 】

赤潮は依然全域で発生していません。

プランクトンは非常に少なく、渦鞭毛藻のケラチウム(*Ceratium fusus*)やケイ質鞭毛藻のディクチオカ(*Dictyocha speculum*)などがみられる程度で、透明度は最も低いところで5m以上あり、水色もほぼ緑色基調でした。

なお、保田から富浦にかけての周辺海域では、主にケイ藻類がみられる程度でした。

※ 千葉県の赤潮の目安は次のとおりです。

色	: オリーブ～褐色
酸素飽和度	: 150%以上
透明度	: 1.5m以下
pH	: 8.5以上
クロロフィルa	: 50 $\mu\text{g/L}$ 以上

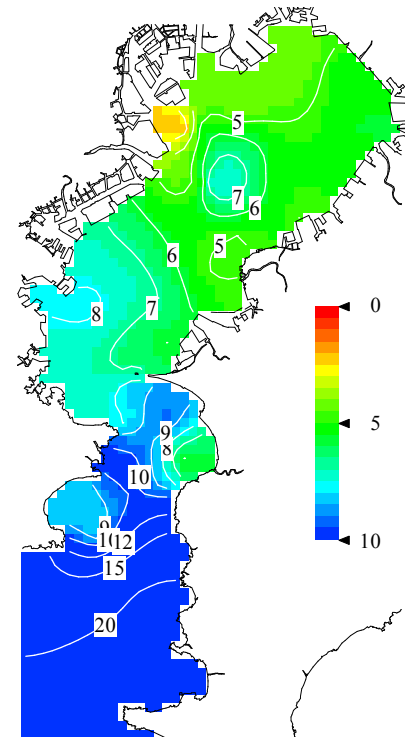


図4 透明度の分布(m)

## 【 貧酸素水塊の状況 】

内湾底層部の溶存酸素量(図5, 6)は最も低いところで4ml/L前後あり、貧酸素水塊は発生していません。

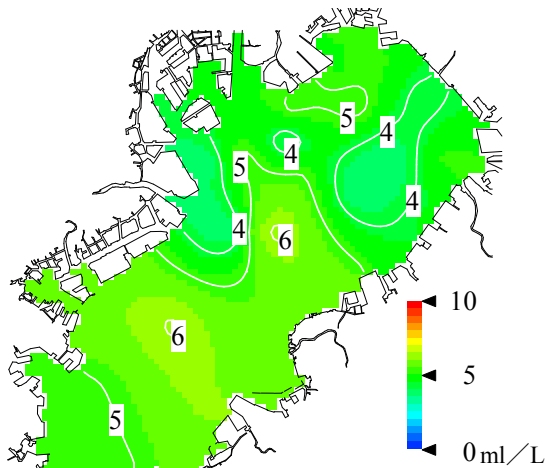


図5 底層部の溶存酸素量の分布(内湾)

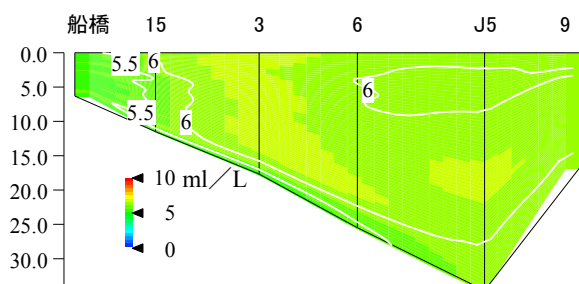


図6 縦断面の溶存酸素量の分布(内湾)

※ 千葉県水産総合センターでは、溶存酸素量2.5ml/L(酸素飽和度50%)以下を貧酸素水塊としています。

## 【 栄養塩の状況 】

湾内の表層栄養塩濃度(図7)は溶存無機態窒素(DIN)、リン酸態リン( $\text{PO}_4\text{-P}$ )ともほぼ全域で平年並み～やや高めになっています。

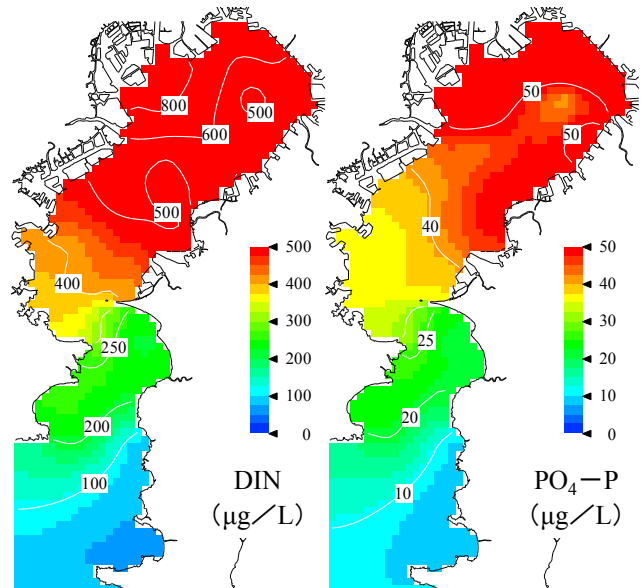


図7 栄養塩濃度の分布(表層)

## 【黒潮の状況】

黒潮はほぼC型基調で推移し、その流軸は、5日現在青ヶ島付近まで南下した後北上し、房総半島南東岸をやや接岸しながら北東方向に流れています(図8)。このため、水温21℃台の水塊が房総半島南東岸から大島へ向かう流れがみられています。

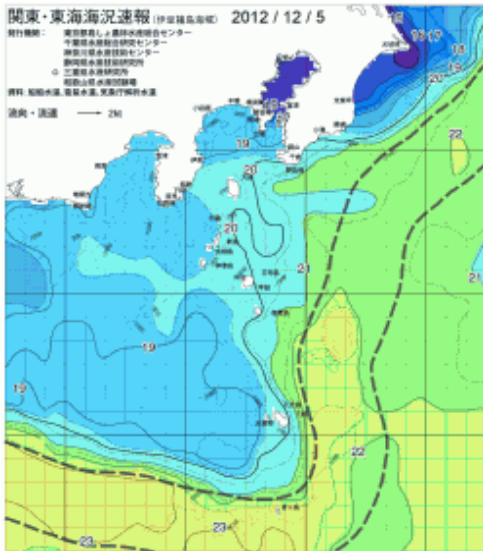


図8 黒潮の動き (平成24年12月5日)

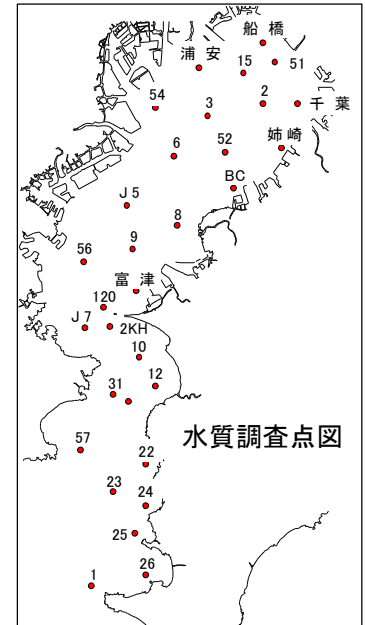


表1 主な調査点の水質調査結果 (表層, 溶存酸素量のみ底層)  
( ) : 最近10年間の平均値 (2002~2011年)

調査点	水温 (°C)	塩分	透明度 (m)	pH	溶存酸素量 (ml/L)	アンモニア態窒素 (µg/L)	溶存無機態窒素 (µg/L)	リン酸態リン (µg/L)	クロロフィルa (µg/L)	
内湾	船橋	14.2 (14.8)	31.93 (31.03)	4.6 (4.2)	8.1 (8.2)	4.8 (4.9)	234 (101)	631 (552)	83 (53)	1.3
	st.15	13.4 (15.1)	32.00 (31.01)	4.6 (4.2)	8.2 (8.2)	5.1 (4.7)	175 (87)	572 (533)	60 (45)	1.4
	st.3	13.6 (15.1)	31.25 (30.46)	5.8 (4.9)	8.3 (8.2)	4.9 (4.3)	138 (91)	651 (576)	49 (41)	1.8
	st.6	14.0 (15.1)	31.75 (30.84)	7.5 (5.7)	8.3 (8.2)	5.3 (4.3)	104 (81)	530 (532)	44 (41)	1.3
	st.9	14.6 (15.5)	32.00 (31.56)	7.0 (6.3)	8.3 (8.2)	5.9 (4.8)	85 (55)	474 (420)	41 (36)	1.6
	st.BC (盤洲Cブイ)	17.3 (16.4)	32.28 (31.55)	5.0 (5.0)	8.2 (8.2)	5.3 (4.7)	120 (70)	602 (458)	48 (42)	1.7
	st.8 (盤洲A南)	14.6 (15.7)	32.01 (31.84)	5.0 (5.6)	8.3 (8.2)	5.5 (4.5)	128 (64)	502 (429)	48 (39)	2.2
	富津	15.1 (15.6)	31.78 (31.88)	6.0 (4.8)	8.3 (8.2)	5.7 (5.0)	105 (56)	424 (371)	38 (32)	1.1
内房海域	st.2KH (第2海ほ下)	15.4 (15.9)	34.12 (32.73)	8.5 (7.1)	8.2 (8.2)	71 (44)	308 (304)	29 (30)	0.6	
	st.31	16.2 (17.0)	33.75 (33.10)	10.0 (12.2)	8.3 (8.2)	32 (30)	242 (227)	24 (22)	0.8	
	st.23	17.9 (18.8)	33.53 (34.06)	19.0 (16.9)	8.3 (8.2)	11 (15)	109 (104)	11 (12)	0.3	
	st.1	19.5 (19.2)	34.38 (34.30)	22.0 (17.8)	8.3 (8.2)	10 (14)	49 (66)	7 (9)	0.4	
	st.10 (下洲沖)	16.5 (16.7)	34.25 (33.11)	11.0 (8.7)	8.3 (8.2)	35 (34)	211 (242)	21 (23)	0.7	
	st.12 (湊沖)	15.5 (16.8)	34.25 (33.27)	6.0 (7.2)	8.3 (8.3)	31 (25)	216 (191)	21 (20)		
	st.22 (保田沖)	18.5 (18.8)	34.32 (34.18)	19.0 (13.0)	8.3 (8.3)	3 (14)	64 (85)	7 (10)	0.4	
	st.24 (富山沖)	18.7 (19.1)	34.29 (34.24)	21.0 (13.5)	8.3 (8.2)	3 (12)	59 (71)	7 (8)	0.3	
st.26 (館山湾内)	19.1 (19.5)	34.37 (34.28)	21.0 (13.1)	8.3 (8.2)	7 (13)	52 (61)	6 (8)			

注) 透明度、pH、クロロフィルaの欄の橙色は赤潮の基準に、溶存酸素量の欄の青色は貧酸素水の基準に達していることを示しています。